

## 会議議事録

会議名	平成 25 年度第 1 回教育課程編成委員会
開催日時	平成 25 年 12 月 3 日 (火曜日) 16 : 00 ~ 18 : 00 ( 2 h )
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：横堀由喜子委員、須貝和則委員、山室 靖委員、渡辺元三委員 (計 4 名) ②本校委員：藤野 裕 (校長)、橋本正樹 (副校長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、 菊池聖一 (医療マネジメント科学科長)、黒田 潔 (教務委員長)、宮下明久 (事務局長)) (計 6 名) ③事務局：高橋 稔 (校長室長) (参加者合計 11 名)
欠席者	なし
配付資料	□委員名簿、□実践的かつ専門的な職業教育の教育課程編成委員会に関する細則、□職業実践専門課程の創設について、□平成 25 年度の職業実践専門課程の申請に関する年間スケジュール、□平成 25 年度早稲田速記医療福祉専門学校運営方針、□平成 25 年度学科運営計画 (医療秘書科、医療マネジメント科)、□平成 25 年度講義要項 (医療秘書科、医療マネジメント科)、□学校案内書、□ 2 - 40 プロジェクトパンフレット、□校友会報
議題等	1. 校長挨拶 藤野校長より本委員会設置、編成の経緯について説明し、開会挨拶とした。  2. 本日の出席者紹介 ①事務局より本校委員が紹介された。 ②企業等委員より自己紹介が行われた。  3. 「実践的かつ専門的な職業教育の教育課程編成委員会に関する細則」の規定に基づき、藤野校長が委員長となり議事を進めた。  4. 教育課程編成委員会の目的と委員へのお願い (説明者：事務局高橋) 事務局より、職業実践専門課程及び本校の申請準備について説明があり、医療秘書科と医療マネジメント科の平成 26 年度のカリキュラムを初め、授業内容・方法の改善・工夫等に向けて、現場の視点から意見や助言を行うことについて確認、了承された。  5. 教育課程編成委員会の進め方について (説明者：事務局高橋) 事務局より、本委員会の平成 25 年度の進め方について説明があり、12 月 1 回、2 月 1 回の開催について確認、了承された。  6. 本校カリキュラム等について説明及び質疑 医療秘書科の石川学科長、医療マネジメント科の菊池学科長より、配付資料に基づき、

それぞれの学科の平成 25 年度の学科運営計画と学科の教育の概要について説明の後、企業等の各委員に順に意見を伺い、その後、本校委員との意見交換、質疑が行われた。詳細は、別紙のとおり。

7. 次回日程、その他

- ・次回：2月13日（木）16:00～18:00 会場は本校1階会議室
- ・以上を確認して閉会した。

以上

別紙

## 第1回教育課程編成委員会の主な討議内容

- 医療秘書科の石川学科長より、配付資料の学科運営計画と講義要項、学校案内書により学科教育の概要を説明した。
  - ・ 接遇、レセプト知識を中心に、主に病院の受け付け周りのスタッフを養成している
  - ・ 基礎教育と専門教育を初め、カリキュラムの各領域のウエイト付、バランスが難しい
  
- 医療マネジメント科の菊池学科長より、配付資料の学科運営計画と講義要項により学科教育の概要を説明した。
  - ・ 医療秘書科の後にできた共学学科
  - ・ 医療秘書科は医事課中心、医療マネジメント科は広範囲の事務部門への対応
  - ・ 診療情報管理士を目指す専攻科（40%程度進学）と高度専門士を目指す4年制がある
  - ・ 専攻科と4年制ではデータベース教育を充実し、アクセスとSQLを学んでいる。
  
- 藤野委員長より、以上の説明と本日の配付資料等をご覧いただいて、まずはご質問、ご感想、ご意見をお伺いしたいとの説明があり、指名順に発言をお願いした。
  
  
- 渡辺委員からは概略以下の発言があった。
  - ・ 本院では医事課職員に診療情報管理士の資格取得を求めており、毎年2名に対して費用の1/2を補助して日本病院会の通信教育と資格試験を受けてもらっている。
  - ・ 医事課の現在の仕事には診療情報管理士の知識が必須と考えている。
  - ・ 在学中に診療情報管理士の資格を取得して病院に就職し、医事課を手始めに仕事を覚えていくという考え方がある。
  - ・ 病院における接遇は、本当の意味での接遇を求めている。
  - ・ 患者だけでなく高齢者、生計困難者といった福祉の領域で扱われる人が病院に殺到している。
  - ・ 当たり前の接遇を基礎に思いやり、おもてなしの心、相手に合わせた臨機応変な態度、対話力が求められている。
  
  
- 須貝委員からは概略以下の発言があった。
  - ・ 医療秘書科の感想としては受付周りの仕事を中心とした教育をしていると感じたが、そうであれば、その仕事のウエイトが高い所、例えばクリニックに特化したら良いのではないかと。
  - ・ 地域連携が進む中で、クリニックには在宅や訪問医療、看護の役割が期待されているが、そういったことも教育すれば特徴が出ると思う。
  - ・ 大手病院の医療事務であれば、中途半端はいらない、診療情報管理士レベルの知識を要求している。
  - ・ 医療マネジメント科の感想としては、病院経営のマネジメントは難しく、データをしっかり扱えて、チーム医療の中で全体を動かす知識や技能、また下働きとしての気配りや小回りの良さが求められており、新人には早慶上智レベルの能力を要求している。
  - ・ 在学生には是非専攻科に進学して、診療情報管理士の資格を取るようにアピールして欲しい。40%は少ないと思う。病院で仕事をするとしたら、資格とその知識の証明を持って就職するのと、そうでな

く就職するのでは全然違う。

- ・持っていなければ仕事をしながら勉強をすることが必要になり、それはそれで本当に大変なこと。

○山室委員からは概略以下の発言があった。

- ・最近の若い方、新入の方の印象としては、職場内で同僚や先輩とのコミュニケーションがとれない人が増えていると感じている。
- ・患者様対応でのつまずきではなく、職場の上下、左右の関係でつまずいてしまい、結果として仕事に支障が生ずるといったことがある。
- ・例えば、以前は元気で覇気がある実習生が多かったように感じているが、最近は挨拶もできない実習生、オリエンテーションの説明中に居眠りをしている実習生もいるような状態がある。
- ・患者対応は慣れでできるところはあるし、必要なサポートもあると思うが、職場の人間関係はそうはいかない、病院は特に女性が多い職場であり、その面での難しさもある。
- ・PC教育はウインドウズでOK、反対に言うとならなくて困るということであり、しっかりやっていたら良いと思う。
- ・皆さんがお話されているように、診療情報管理士の基礎知識は必須のものであり、受付でも必要と考えている。調べ方や勉強の仕方を知っていることが強みになると思う。
- ・アクセスは習っただけではだめで、要求するのは使えるレベル。業務の中にはまだまだ転記がたくさんあり、ミスを防ぐ、効率を上げる、業務を改善するために色々応用している。
- ・用度、総務系は殆ど採用がないが、施設基準をしっかりとやっていたらアピールできると思う。

○横堀委員からは概略以下の発言があった。

- ・日本病院会の診療情報管理士の通信教育は現在年間約 2000 人、受講生は現場の方が 90%。
- ・病院知識から、医学、コーディング、介護まで、非常に広範囲の知識が要求されている。
- ・現在はまだ病院団体の認定資格だが、職能団体、学会もしっかりと活動しており本気で名称独占の国家資格を目指している。
- ・医療マネジメント科の感想としては、認定した学校で勉強をすれば受験資格が得られる、学校での勉強で資格が取れるものであり、やらなければ本当にもったいないと思う。
- ・本校の場合は、専攻科に進んで1年勉強すれば受験資格を得られ、卒業前に受験ができ、就職時点で資格を持つ意味を、学生だけでなく保護者にもしっかり伝えたらよいと思う。
- ・そのため、日本病院会では資格の説明や必要性について、依頼があれば講演等のお手伝いをしている。
- ・医療秘書科の感想としては、やはりこれからのターゲットはクリニックだと思う。診療情報管理士の知識があれば更に積極的にアピールすることができると思う。医療秘書科でも受験資格が得られるようにしてはどうか。

○藤野委員長より各委員の発言からは次の4点が今後の検討のキーワードとして挙げられるように思うとのまとめの後、本校委員も交えて各委員が自由に意見交換を行った。

- ① 応対・マナー指導のステップアップ、コミュニケーション力、対話力の増進
- ② PC教育の方向性
- ③ 診療情報管理士の資格、知識の浸透
- ④ 病院マネジメント教育への取組

○以下はその概要である。

- ・最近では勉強と学校生活をそれぞれリセットする学生が増えている気がする。授業はしっかりやるが、学校生活は別、授業で習ったことを実際に活かす、応用するといったことはない。
- ・何でもかんでも人頼み、言われればやるが、言われなければやらない、職業観、就業観が培われていない、それが実習に現れている。
- ・職場、職業としての病院に対する意識は学校による違いが大きいと思う。
- ・実習に来ているのに職業に就く意識、気持ちになっていない例がある。
- ・実習は単位を取るため、実習なのだから教えてもらうのが当たり前、教えてくれないと分からないといった受け身の態度は困ったもの。
- ・医療に関わる仕事、病院という職場に対するモチベーションがないと困る、これは1年生のうちに付けないと難しいと思う。
- ・しっかりと動機付けして教育をしていないと、実習で病院に迷惑を掛けてしまうことがある。
- ・ある学校では入学後半年間は仕事と職場に対するモチベーション教育を徹底して、やる気にさせることだった。
- ・在学中に実務、仕事に対するイメージ作りが大切だと思う。
- ・病院の接遇は相手に合わせた応対、1対1の応対、普通の人ではない人への応対であり、聞き取る力、寄り添う心、そのための心からの挨拶、場と相手に応じた挨拶、言葉遣い、態度が求められる。
- ・傾聴と対話、共感を基本にした看護師や福祉職でのコミュニケーション教育が参考になると思う。
- ・心からの挨拶はどこでも通用する、ある学校を訪問したときにとても良い印象を持ったことがある、しっかりと躰ができると良いと思う。
- ・そのことは学校関係者評価委員会でも福祉関係の仕事をしている委員から同じような発言があった。
- ・国立病院機構は、今後事務職の採用を増やして行きたいと考えている、現在は経験者、中途採用が中心だが、後は新卒採用の求人が増えると思う。
- ・レセプトのスペシャリストとして目指すものは何か
- ・PC作成のものを見る、見抜く力、疑問があれば自分で調べて確認ができる力だと思う、レセプトを作る能力よりも見る、点検・確認する能力が優先されると思う。
- ・認定試験の例題は現場とは全く異なっている。とは言え認定試験を目指すことは必要。
- ・今後は介護、福祉との合体が進んでいく、急性期医療、介護、在宅の共通項を理解し、医療と福祉をコーディネートできる人材が求められる。
- ・法と制度をしっかり理解し、ケースワーカーやMSWの知識（資格）にレセプトが分かる人材。
- ・2018年から始まる地域包括支援システムの中で各病院がどうするかがある。

○最後に、藤野委員長より、本日いただいた意見や助言をもとに、平成26年度のカリキュラムを初め、授業内容・方法の改善・工夫等に向けた検討課題と具体的な取組を明確にして次回報告し、改めて意見や助言をお願いする旨の説明が行われた。

以上

## 会議議事録

会議名	平成 25 年度第 2 回教育課程編成委員会
開催日時	平成 26 年 2 月 13 日 (木曜日) 16 : 00 ~ 18 : 00 ( 2 h )
場所	本校 1 階会議室
出席者 (敬称略)	①企業等委員：横堀由喜子委員、須貝和則委員、山室 靖委員、渡辺元三委員 (計 4 名) ②本校委員：藤野 裕 (校長)、橋本正樹 (副校長)、石川幹夫 (医療秘書科学科長)、 菊池聖一 (医療マネジメント科学科長)、黒田 潔 (教務委員長)、宮下明久 (事務局長) (計 6 名) ③事務局：高橋 稔 (校長室長) 出野孝行 (校長室) (参加者合計 12 名)
欠席者	なし
配付資料	□資料 1 : 平成 25 年度第 1 回教育課程編成委員会議事録 (案内同封)、□資料 2 : 職業実践専門課程申請書 別紙様式 1 記述 (案内同封)、□資料 3 : 1 / 8 日経新聞朝刊社会面記事、□資料 4 : 職業実践専門課程申請の経過報告、□資料 5 : 職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦に関する追加報告について、□資料 6 : 平成 26 年度カリキュラム (医療秘書科、医療マネジメント科)、□資料 7 : 専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン、□資料 8 : 本校情報公開ホームページコピー
議題等	<p>1. 校長挨拶 藤野校長より職業実践専門課程への申請状況について説明し、開会挨拶とした。</p> <p>2. 前回委員会議事録の確認 委員会細則に従い、藤野校長が委員長となり議事を進めた。 藤野委員長より、前回議事録 (資料 1) について訂正等がなければ確認したい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。</p> <p>3. 職業実践専門課程への申請について (説明者：事務局高橋) 事務局より、職業実践専門課程申請の経過報告 (資料 4) に基づき、第 1 回委員会以降の機関決定と作業経過、及び申請した両学科 (医療秘書科、医療マネジメント科) の申請書別紙様式 1 に記述した内容について (資料 2) 説明があり、本委員会が提案した内容とその記述について確認、了承された。 また、認定までの今後の予定と認定以降の本委員会の役割と作業の進め方についても説明があり、確認、了承された。 併せて、1 月 8 日の日経新聞朝刊社会面記事 (資料 3) について、報道された内容の背景他の説明が行われた。</p> <p>4. 委員会でのご意見に基づく教育活動の進め方について (説明者：事務局高橋) 事務局より、職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦に関する追</p>

加報告について（資料5）及び平成26年度カリキュラム（資料6）に基づき、両学科（医療秘書科、医療マネジメント科）の申請書別紙様式1に記述した本委員会からの提案に対する検討経過と、来年度の教育課程編成に本委員会からの意見をどのように活用したかについて、以下の各項目に従ってそれぞれ説明が行われた。

- ・意見の内容
- ・変更、新設する科目
- ・科目内容の工夫、改善
- ・機関決定の経過

次に、医療秘書科の石川学科長、医療マネジメント科の菊池学科長より説明に対する補足が行われ、その後、企業等の各委員と本校委員との意見交換が行われた。

詳細は、別紙のとおり。

最後に事務局より、別途開催している学校関係者評価委員会からいただいた以下の提案の進め方についても説明が行われた。

- ・医療秘書科：病院実習の指導資料の改訂
- ・医療マネジメント科：がん登録に必要とされる科目開設の準備

#### 5. 情報提供について（説明者：事務局高橋）

事務局より、本校情報公開ホームページコピー（資料8）に基づき、12月以降の本校の情報提供の現状について説明するとともに、その背景となる文部科学省によるガイドラインについて、専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン（資料7）に基づき説明があり、職業実践専門課程申請の必須条件であることが報告された。

また、同ページに本委員会の委員名簿と第1回委員会の議事録を公表していることについても報告があり、確認、了承された。

#### 6. 次回日程、その他

藤野委員長より、来年度の予定について以下の説明があり、4月以降ご予定をお伺いして日程調整を行うことを確認して、閉会した。

- ・委員会は年2回開催、次回は来年度初回となり、6月を予定している。
- ・次回テーマは以下を予定している。
  - ①平成26年度学科運営計画の説明
  - ②平成26年度カリキュラムの実施状況の報告
  - ③平成27年度カリキュラムの編成に向けた意見伺い

以上

別紙

## 平成 25 年度第 2 回教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 委員会でのご意見に基づく教育活動の進め方についての説明と意見交換の概要は以下の通り。
- 石川委員（医療秘書科学科長）より、職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦に関する追加報告について（資料5）及び平成26年度カリキュラム（資料6）に基づき補足説明を行った。
- ・医療機関で働くことに関する早期の繰り返しの動機付けについては、両学科共通でキャリアデザインⅠで実施する。今までも就職講話という形式で就職活動開始時期に行っていたが、委員会でのご意見をもとに、初回を入学間もない時期の動機づけの機会と位置付けて、現場の方をお招きして仕事と職場に対する講演会を行うことにした。
  - ・「本物の接遇」をキーワードとしたコミュニケーションについては、2年次後期「医療メディエーション概論」を30時間、2単位科目に変更し、本校の福祉系学科や看護師教員にも協力してもらって、傾聴、対話、共感をテーマに、ロールプレイを中心として内容を追加して、相手の理解に基づく協調の接遇を身に付けられるようにする。
- 菊池委員（医療マネジメント科学科長）より、職業実践専門課程として認定する専修学校の専門課程の推薦に関する追加報告について（資料5）及び平成26年度カリキュラム（資料6）に基づき補足説明を行った。
- ・診療情報管理士資格の意味とその必要性、有用性の理解の増進については、前回の本委員会において、横堀委員より他校での講演実績があるとお伺いしたことから、本校においても同様のご講演をお願いすることとした。心構えや準備などを段階的に進め、意識を高めるために、1年次後期のキャリアデザインⅡと2年次前期のキャリアデザインⅢにおいて実施することで内諾をいただいた。
  - ・入学後の進路選択の多様化への対応と新しい制度に関連する分野の科目の工夫については、「診療報酬請求事務Ⅴ・Ⅵ」、「医事コンピュータ演習Ⅲ・Ⅳ」を新たに設けて、資格取得を目指さない学生に向け、医療と福祉の地域連携に関する新しい制度と具体的な手続きや仕事の内容を理解できるようにした。複数の先生に教科担当をお願いするが、現在シラバスの調整を行っている。
- 藤野委員長より、本委員会の意見に基づく両学科の進め方をまとめると両学科共通では仕事へのモチベーション、医療秘書科ではコミュニケーション力、医療マネジメント科では資格取得と進路の多様化への対応であり、これらの進め方と平成26年度カリキュラム全般についてご質問、ご意見をお伺いしたいとの説明の後、意見交換を行った。

## 1. コミュニケーション力について

- 最初にコミュニケーション力について「医療メディエーション」を担当予定の黒田委員より今年度実施した授業の概要について以下の報告があった。
- ・2年生後期7回（授業6回+試験）、内容はリスクマネジメントとコンフリクトマネジメントの入門に発想、思考としてのメディエーションの説明であり、実習を踏まえた病院におけるコミュニケーションの再確認的なものに止まっている。
  - ・これに対して横堀委員より授業の形式について質問があり、今年度の授業はロールプレイではなく、毎回課題を与えて記述させ、授業後に提出、コメントを行う形式で進めたとの説明が行われた。



○以下、このテーマに関して概略以下の意見交換が行われた。

- 石川委員：ロールプレイ形式の授業は、医療サービスマナー、病院受付実務マナー、ホスピタリティなどの基本となる接遇対応の授業で行っている。
- 横堀委員：これらの科目を担当する先生は何人くらいか、教員間のコミュニケーションはどのように行っているのか、全員は勿論、関連科目ごとの講師会が必要ではないか。
  - ・また、通信教育もそうなのだが、科目内容の重複の確認と調整、科目間の関連や整合性がテーマではないか、全体的に機能させる、全体と部分との関係もはっきりさせる必要がある。
- 石川委員：コミュニケーション関係の科目は要望や必要性を背景にそれなりに配置しているが4クラスあり教員数も30人程度と多い、科目がそれぞれ独立していて相互関係が薄いため、今後は関連を強めていく予定でいる。メディエーション概論は患者の心理と併せて、コミュニケーションのまとめをイメージしている
  - ・科目内容に重複はある、重複が必要なところもあるが、それも分った上でないと単純な重複になってしまうので、これで良いのかとの思いはあるが十分に調整できているとは言えない。
- 藤野委員長：教員のコミュニケーションの全校的な現状については、年1回全教師会、科会を行っているが専門分野での意見交換はしていないのが実情であり、学校関係者評価委員会からももっと兼任講師を活用するためにも意見交換が必要という提案もいただいている。
  - ・また科目群としてまとめるには、例えば接遇教育部会などの名称で集まっていただく工夫も必要かもしれない。検討課題である。

## 2. 病院での考え方、進め方の事例について

- 次に病院での考え方、進め方の事例はどうかについて、概略以下の意見交換が行われた。
- 山室委員：接遇委員会がある、部門でなく全体的なものとしてやっている、朝礼で挨拶練習などを日常のこととして行っている。挨拶に関しては外部からの指摘もあるので、これは新人ということではなく、全員を対象にしたもので行っている。
  - ・医事課はいろいろな対応が求められる。特に自分に身に覚えのないこと、自部門でなく他部門のミスへの対応ということがあるので意識した対応は必須になる。
- 渡辺委員：病院により様々だが、例えば機能評価の基準で考えれば病院の理念復唱がある。
  - ・根本に宗教がある場合も、基準は明快にあり、理念復唱、それを会議やミーティングの時に読んだり、唱和したりして、それが核の部分になる。
  - ・いろいろな検討会はあっても核になるものをしっかり持ったうえでのことで、そのうえで自分はどう行動するかということであり、それが職業に対する倫理観につながる。
  - ・例えるなら、患者さんが転んだ時、ゲロを吐いたときに自分からどう行動できるか、行動規範、理念をしっかり教えないと接遇は難しい。
- 須貝委員：病院では緩和ケアのロールプレイなどもやっているが、ロールプレイは対患者だけでなく従業員同士のことで必要だと思う。職場での他職種、同僚との接し方、仕事のモチベーションをどう維持するかなどについてもしっかりやらなければならない。
- 藤野委員長：接遇教育の基本は考える基準を明確にすることだと思うが、学校であればそれは教育理念にある。教員のコミュニケーションを基本に地道な積み上げをして行くこと。本校の研究テーマの核として考えても良いことかもしれない。
- 菊池委員：学校教育に置き換えると段階的なものか ①挨拶→②気づき→③気持ちの理解 をロール

プレイ形式で行ってみたいと思う。

### 3. 医療マネジメント科の進路多様化への対応への進め方について

○次に医療マネジメント科の進路多様化への対応への進め方について、菊池委員より概略以下の説明が行われた。

- ・専攻科に進まないのは経済的な理由が多い、そのためにそれらの学生のために医事の仕事の広がりに対応する授業科目を設けることにした。
- ・科目の内容と科目名がぴったりと整合していないが、カリキュラム申請の時期の関係でこうなってしまった、時期を見てできるだけ早く科目名を変更する予定。
- ・授業は常勤の教員でフォローできる見込み。
- ・医師事務作業補助者対応科目は診療情報管理士にも対応している。医師事務作業補助実習も行う。
- ・医師事務作業補助者は全日病の検定を目指す。
- ・診療情報管理士資格は専攻科開設以来8割以上が取得できているが、データベースを扱うところは厳しい。
- ・なお、関連して専攻科への他校からの編入はできるのかとの質問があり、横堀委員より指定校同士ならできるが、それ以外は認めていないとの説明が行われた。

### 4. 平成26年度カリキュラム全般について

○次に平成26年度カリキュラム全般について概略以下の質疑が行われた。

- ・医療秘書科でDPCはどうしているのか、どうして調剤コースに入っているのかとの質問があり、こういう勉強をしてみたい希望への対応であり、他のコースにも設定している。また、コース設定は就職が前提でなく、学生が学びたい科目設定をベースに広報上の配慮もある。選択のモデルとして示しているとの説明が行われた。
- ・配置した授業期について質問があり、医療秘書科では2年生後期はインターンシップで勤務する学生が半分を占めることもあり2年前期の設定としたとの説明が行われた。
- ・医師事務作業補助者は医療秘書科の方が座りが良いのではとの質問があり、全日病の検定対応だと3年必要であることから医療マネジメント科に設定しているとの説明が行われた。

○最後に、藤野委員長より、今後はカリキュラムの構造をどうするかについても意見をいただくようにしたいとのまとめが行われた。

以上